

浅井町 ふれあいたより



6月号

重点施策 「安全で安心なまちづくりと子どもたちの健全育成」 発行日 令和2年6月1日
発行者 浅井町地域づくり協議会 一宮市浅井町前野字郷西 85 (浅井町出張所内)
ホームページ 138azai.org(検索「浅井町地域づくり」)

「大人が協力すれば、子どもは必ずよくなる」

一宮市立浅井南小学校 校長 吉 峯 博 司

4月6日(月)入学式、60名の新1年生を迎え、令和2年度は、全校児童数 342名と32名の教職員でスタートしました。当初は、入学式前日と当日の2日間には、新6年生がその準備やお手伝いのために出校する予定でした。そして、あいさつや行動の中に最高学年としての心構えがしっかりと感じられ、頼もしい姿が見られるのが、例年の様子でした。また、翌日の始業式には、子どもたちは、新年度への期待に胸を膨らませ、笑顔と元気があふれるスタートを切るはずでした。しかしながら、再び休校となり、主役がいない学校は寂しい限りです。

さて、本校の校訓は、「浅南子、かしこく やさしく たくましく」です。学校が再開され、子どもたちが学校に戻ってきたときには、次のような話をしたいと思います。

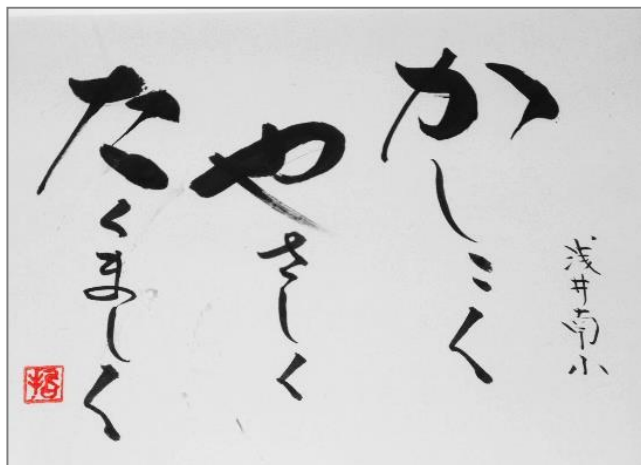
『かしこく』なるための秘訣は、人の話を真剣に聞くことです。集中して話を聞き、それについて考えたり、意

見を述べたりすることが深い学びの実現につながるからです。『やさしく』については、「自分のことが好きですか。」と問いかけます。自分のことが好きになれば、自分を大切にするとともに周りの人たちにもやさしく接するようになると思います。そして、『たくましく』では、休み時間に外遊びをするように勧めます。運動を通して、仲間づくりや助け合い・譲り合いなど人として大切な人間関係を築いてほしいと願うからです。

これらは、未来を生きる子どもたちにとって大切なことばかりです。子どもたちの健やかな成長のために一層の努力を重ねていきたいと思います。『大人が協力すれば、子どもは必ずよくなる』を柱として、教職員一同、力を合わせ、精いっぱい取り組んでいきます。保護者や地域の皆様には、感謝とともにお願いをすることも多々あるとは思いますが、ご理解とご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



昨年度の様子



「買い物バス」紹介

社会そして地域の高齢化が進み、買い物難民と言われる高齢者

が増加しています。一人では買い物に行けない方を対象に、浅井町では「買い物バス」が運行され、買い物のお手伝いをしています。今回は、長田町内と黒岩町内をご紹介します。

「おさだ木曜ショッピング」

平成 30 年 4 月から、県営浅井住宅にお住まいの 60 歳以上



で買い物に困っている方を対象に、毎週木曜の午後、介護老人福祉施設「いわと」さんの車 2 台で参加者をカネスエ浅井店まで送迎しています。取材した 4 月 16 日にも 7 名の方が手提げ袋を手に、2 台の車に乗り込んで、買い物ツアーに出かけました。平均 10 名前後の参加者があり、多くの方が木曜が来るのを楽しみ待ってみえます。包括支援センターアウンと社会福祉協議会がこの事業を支援し、町内会長さんと民生児童委員さんの働き掛けで実現した事業です。今では長田町内以外に 4 町内で買い物バスが普及していますが、この長田地区の買い物バスを参

考にして始められています。

「黒岩にここにショッピング」(買い物バス)

黒岩にここにショッピングは高齢者の方を対象に毎週水曜日に、町内 4 カ所の集合場所を施設のバスが回り、カネスエ浅井店まで送迎する買い物支援事業です。

この事業は、利用者の見守りも兼ねています。元年度は、利用者が 319 名で 1 回当たり 6.5 人でした。主催は黒岩町内会で、協力が介護老人福祉施設いわと、包括支援センターアウンの支援を頂き、活動しています。少しでも高齢者の買い物支援の一助になればと、多くの方々の協力を頂き、活動が続けばと思います。



令和 2 年度浅井町地域づくり協議会役員

令和 2 年度浅井町地域づくり協議会役員の紹介をさせていただきます。

役 職	氏 名	町 内 会	備 考
相談役	和田 勝美	宝生町	町会長 OB
会長	栗本 和徳	東尾関	町会長 OB
副会長	川原 充	西浅井	連区長
副会長	大野 史郎	大野	公民館長
副会長	井上 幹敏	大日比野	浅井防犯パト隊長
理事	加藤 一代	長田	民生児童委員会会長
理事	瀧本 明	黒岩	長寿会長
理事	高山 幸四郎	江森	児童育成協議会会長
理事	森 起志男	東浅井	副公民館長
書記	野田 史郎	江森	企画広報部会長
会計	柴垣 清明	大野	副連区長
監事	井戸 昇	宝生町	副連区長

